

9. 26 「公立保育園守れ」大集会 『私たちが思うこと・願うこと』

私たち「保育をよくするネットワークなごや」は、断固として「公立保育園の廃園・民営化」に反対し、保護者と保育者がともに手をつなぎあい、子どもたちの豊かな保育園生活や地域に根ざした保育園を守っていきます。

則武保育園に続き、昨年11月には、千種台・山田・苗代保育園の3つの公立保育園の廃園・民営化提案がされました。

山田保育園では、「山田保育園のままで建て替えてほしい」という保護者の思いに反して、廃園・民営化に向けた公募が進められています。

苗代保育園では、1期生の父母が立ち上がり、「苗代保育園を守る会」を発足させ、地域も一緒になって運動を展開しています。

千種台保育園では、地下鉄自由が丘駅前での週1回の宣伝行動をはじめ、市長に面会を求めて市役所をたびたび訪問するなど積極的な取り組みを行っていますが、市長は一度も会ってくれません。一方、保育企画室による第2回保護者説明会では、説明会と言いながらも新しい提案は何もなく、保護者を一層不安にさせるものでした。

保育の実施責任は、国・市町村にあります。児童福祉法第24条には、国・市町村は、その地域に保育にかける子どもがいたら、保育所で保育をしなければならないとしています。

まして名古屋市の財政難や職員定数削減を理由に子どもや保護者を不安にさせる「公立保育園の廃園・民営化」はあってはなりません。

公立保育園は、地域の要望に応える義務を持っています。民間保育園も公的保育制度が守られてこそ、保育の質が守られます。

格差社会の中、まだ幼い子どもまでが、その波の中で生活しなければならない環境は決してつくるべきではありません。すべての子どもは愛され、健やかにいきいきと育つ権利があります。その権利を守るために、私たち大人が手をつなぎあいましょう。

一人の力は小さくても、手をつなぎ合い大きな力になることを信じて、私たちはよりよい保育・子育て制度の充実をめざし、あきらめないうで力強く声を大きく上げていきましょう。

子どもは、子どもを囲む大人たちの豊かなつながりの中で守られ育つものです。どの子どもも豊かな生活と未来を築いていくことができるように大きくつながりあいましょう。

2008年9月26日 保育をよくするネットワークなごや